

B.2 モニタリング実績

(1) 活動量（燃料消費量、生成熱量、生産量等）

モニタリング項目			モニタリング方法			モニタリング実績		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	実績値	計測対象期間	
EL _{PJ}	プロジェクト実施後の発電量	kWh/年	C	電力量計により測定	月	331,584	2016年3月1日～ 2016年8月31日	発電量は、ガスブースター分の電力使用量を差し引いた値である。

※1 プロジェクト計画書に記載した分類（分類A・B・Cのいずれか）とすること。

(2) 係数（単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等）

モニタリング項目			モニタリング方法			モニタリング実績		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	実績値	計測対象期間 (又は計測時期)	
CEF _{electricity,t}	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	III	デフォルト値を使用する	年	0.000569	デフォルト値 【t<1年】	移行限界電源方式
						0.000561	デフォルト値 【1年≤t<2.5年】	
						0.000554	デフォルト値 【2.5年≤t】	

※1 プロジェクト計画書に記載した分類（分類I・II・IIIのいずれか）とすること。

B.3 排出削減量の算定方法

B.3.1 排出削減量の評価

(1) 算定の対象とした排出活動に基づく排出削減量の算定

注) 主要排出活動及び、付随的な排出活動のうちプロジェクト計画書において「排出量を算定する」とした活動のモニタリング結果に基づき排出削減量を算定すること。

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (\text{式1})$$

記号	定義	単位	算定値
ER	算定の対象とした排出活動に基づく排出削減量	tCO2	187.1
EM_{BL}	ベースライン排出量 ※1	tCO2	187.1
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO2	0.0

※1 B.3.2のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 B.3.4のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 B.3.4まで入力後、自動計算されます。

(2) 付随的な排出活動に基づく排出量の影響度による評価

注) プロジェクト計画書において「排出量を算定する。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する」と選択したプロジェクト実施後の付随的な排出活動の排出量の評価を行うこと。(1)で算定した排出削減量に対して

計画書で定めた影響度を垂って算定を行うこと

排出活動	影響度 (%) ※1	排出量 (tCO2)

※1 プロジェクト計画書で評価した影響度を記載すること。

(3) 排出削減量の評価

注) (1)で算定した排出削減量から(2)で評価した排出量を差し引くことにより、排出削減量を算定すること。

記号	定義	単位	算定値
ER	排出削減量	tCO2	187.1
	(1)で算定した排出削減量	tCO2	187.1
	(2)で評価した排出量(※1)	tCO2	0.0

※1 (2)で評価した排出量の総和を記載すること。行を追加して記載した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

B.3.2 プロジェクト実施後排出量

注) 主要排出活動及び、付随的な排出活動のうちプロジェクト計画書において「排出量を算定する」とした排出活動について、プロジェクト計画書で策定した考え方及び算定方法に基づき計算を行うこと。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び本報告において認証を申請する期間の実績値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

(考え方) ※1 対象設備では燃料としてバイオガスを利用して発電するためCO2は排出されない。

$$EM_{PJM} = 0 \quad (\text{式3})$$

記号	定義	単位	実績値
EM_{PJM}	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2/年	0.0

※1 主要排出量の算定の考え方について記載例を参考に記入すること。

(2) 付随的な排出活動

(考え方) ※1 付随的な排出活動に基づく排出量は算定を省略する。

(式)

記号	定義	単位	算定値
EM_{PJS}	プロジェクト実施後の付随的な排出量	tCO2/年	

※1 付随的な排出量の算定の考え方について記載例を参考に記入すること。

B.3.3 ベースライン排出量の考え方

注) プロジェクト計画書で策定した考え方及び算定方法に基づき計算を行うこと。
また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、評価に用いるパラメータの説明及び報告対象期間の実績値を表中に記載すること。

(1) ベースライン排出量の考え方

本方法論におけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後に対象設備で発電された電力のみを、系統電力から得る場合に想定されるCO2 排出量とする。
プースター電力使用量は正確に把握できないことから、保守的に送電量で計算する。

(2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

$$EL_{BL,grid} = EL_{PJ} \quad (\text{式})$$

記号	定義	単位	実績値
$EL_{BL,grid}$	ベースラインの系統電力使用量	kWh/年	331,584
EL_{PJ}	プロジェクト実施後の発電量	kWh/年	331,584

B.3.4 ベースライン排出量

注) プロジェクト計画書で策定した考え方及び算定方法に基づき計算を行うこと。
また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、評価に用いるパラメータの説明及び報告対象期間の実績値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

$$EM_{BL,M} = EL_{BL,grid} \times CEF_{electricity,t} \quad (\text{式})$$

記号	定義	単位	実績値
EM_{BL}	ベースラインの主要排出量 (t < 1)	tCO2/年	75.5
	ベースラインの主要排出量 (1 < t < 2.5)	tCO2/年	111.6
	ベースラインの主要排出量 (2.5 < t)	tCO2/年	0.0
$EL_{BL,grid}$	ベースラインの系統電力使用量	kWh/年	331,584
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2排出係数 (t < 1)	tCO2/kWh	0.000569
	電力のCO2排出係数 (1 < t < 2.5)	tCO2/kWh	0.000561
	電力のCO2排出係数 (2.5 < t)	tCO2/kWh	0.000554

(2) 付随的な排出活動

(考え方) ※1

(式)

記号	定義	単位	実績値
$EM_{BL,S}$	ベースラインの付随的な排出量	tCO2/年	0

※1 付随的な排出量の算定の考え方について記載例を参考に記入すること。

B.4 省エネルギー量の算定

燃料種別 (※1)	認証を申請する期間 (2016年3月1日～2016年8月31日)							
	エネルギー使用量			熱量換算 (GJ)※2		原油換算 (Kl)※2		
	単位	ベースライン	プロジェクト 実施後	ベースライン	プロジェクト 実施後	ベースライン (①)	プロジェクト 実施後 (②)	ベースライン -プロジェクト 実施後 (① -②)
A重油	k l							0.0
L P G	t							0
天然ガス	千Nm ³							0
L N G	t							0
都市ガス	千Nm ³							0
購入電力	k W h	331,584	0	3,305	0.0	86.0	0.0	86.0
							合計	86.0

※1表に記載の燃料以外を用いる場合には、行を追加して記載すること。

※2熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。